

平成 30 年度 第 5 回宮崎支部評議会の概要報告

開催日時	平成 31 年 1 月 16 日 (水) 14 : 00 ~ 16 : 00
開催場所	宮崎支部会議室
出席者	上山評議員、佐藤評議員、谷口評議員、長鶴評議員、松浦評議員、安井評議員、谷田貝評議員 (五十音順)
議 題	<p>(1) 平成 31 年度都道府県単位保険料率について</p> <p>(2) 平成 31 年度宮崎支部事業計画 (案) および予算 (案) について</p> <p>(3) 平成 31 年度宮崎支部評議会のスケジュール (案) について</p> <p>(4) その他</p>
議 事 概 要 (主な意見等)	<p>(1) 平成 31 年度都道府県単位保険料率について</p> <p>■資料に沿って事務局より説明</p> <p>■主な意見や質問など</p> <p>(被保険者代表)</p> <p>事務局から説明があった状況もあり、定められた算定方法で出された率であるから仕方がない。</p> <p>(学識経験者)</p> <p>保険料率が上がることについては、これからいろんな場面で説明をしていかないといけないと思うが、納得していただくよう、工夫して広報・説明しなければならないと思う。</p> <p>(学識経験者)</p> <p>事務局の説明で、31 年度の保険料率が上がることについては納得できる。今後のことはなんとも言えないと思うが、医療費が減り、保険料率が下がることを期待する。</p> <p>(学識経験者)</p> <p>現行制度においてこの保険料率になることは仕方がない。ただ、一定の支部の加入者等が負担過多とならないよう、制度の改正も必要であると思う。</p> <p>(事務局)</p> <p>平成 29 年度の医療給付費実績が見込み額を約 1 億 8 千万円上回ったことが、保険料率を上げる大きな原因であると考えられます。考えられる要因について説明いたしましたが、逆に、31 年度の保険料率は 29 年度の高い医療費を基に算定されておりますので、2 年後の保険料率の算定の際に、今回のような要因がなければ、保険料率を下げる方向に働くということも考えられます。しかし、いずれにしても医療費の伸びを抑制するためには、医師の協力もいただきながらジェネリック医薬品の使用割合を上げていくことや、加入者や事業主の協力のもと、健康づくりに取り組んでいくことが必要であり、支部の取り組みが重要であると考えます。</p> <p style="text-align: center;">— 平成 31 年度宮崎支部保険料率について異議なし —</p>

(2) 平成 31 年度宮崎支部事業計画 (案) および予算 (案) について

■資料に沿って事務局より説明

■主な意見や質問など

(学識経験者)

宮崎支部はジェネリック医薬品の使用割合が高く、評価をされている部分だと思う。さらなる取り組みとしての事業案を出されているが、「見える化ツール」とはどういったものなのか。

(事務局)

「見える化ツール」とは、調剤薬局ごとのジェネリック医薬品の数量割合等についてグラフ化・数値化した統計情報が作成できるツールとなります。この統計情報を調剤薬局に送付することで、県内薬局と比較ができ、立ち位置をお知らせすることができます。県内全調剤薬局に送付するという事業案になっております。

(学識経験者)

組織・運営体制関係で、一般競争入札についての K P I を設定しているが、一般競争入札の件数は支部でどれくらいあるのか。また、30 年度においても、K P I は設定されていないが同じような計画を立てており、「入札に参加しなかった業者に対するアンケート調査等を実施し、一者応札案件の減少に努める」とあるが、アンケートの結果はどうだったのか。

(事務局)

昨年度の一般競争入札は 5 件で、そのうちの 3 件が一者応札となっております。一者応札は、事業内容にもよりますが、参加可能な事業所が少ない宮崎県など地方に多いと考えられます。ホームページで公告をしておりますので県外事業者からも問い合わせがありますが、ある県外の事業者からは、宮崎に支店がなく、費用対効果の面から参加は難しいといったアンケートの回答がありました。

— 平成 31 年度宮崎支部事業計画 (案) および予算 (案) について異議なし —

(3) 平成 31 年度宮崎支部評議会のスケジュール (案) について

■資料に沿って事務局より説明

特記事項

- ・傍聴 協会けんぽ宮崎支部職員 1 名
- ・次回の評議会は、平成 31 年 7 月に開催予定